

成宮まり子

参院京都選挙区候補

命を守る議席必ず

《上》

四歳の子どものお母さん候補として、「平和・暮らしを守る」と奮闘する日本共産党の成宮まり子参院京都選挙区候補(36)。二〇〇六年四月の立候補表明以来、北は丹後から南は南山城まで府下隅々まで回って府民の声に耳を傾け、ともに涙し、願ひ実現に奔走しています。成宮さんの行動力・実行力の一端をみました。

懇談、提言、交渉

「共産党は、ようやうってんと思う。小さくつぶっておらんと、赤い火をつけてほしい」。地域の有力者、「ずっと自民党でやってきた」と語る元医師会長が成宮さんに期待を寄せました。

深刻化する医師不足について、成宮さんが訪ねた人です。「息子と二人でやっているが、孫は継

安心できる医療へ

がないというし、あと二十年もすれば廃業や。命の格差が広がり、地域社会は崩壊しかねない。へき地だけでなく都市部でも医師不足が起こっている

成宮さんは昨年五月、「いのちと健康を守る」と、府北部の医療関

いのち守れと対話を広げる成宮候補

—京都府与謝野町で



係者を精力的に訪ねて深刻な実態や要望を聞き、話し合いました。同行した吉田さゆみ衆院5区候補は「その後の取り組み

の出発点になった」と振り返ります。

医療機関訪ね

昨年六月末には、日本

共産党が三百五十の医療機関にアンケートを送付。以後半年にわたって百二十二カ所にのぼる訪問・懇談がスタートします。

「福井県からも患者が来る。いつ呼び出されるか分からないので外出さえできない」「過労死寸前の医師がどれだけのことが「地域から病院をなくしてしまうような医療制度の改悪。こんな悪い法律に賛成した国会議員の頭がおかしいのではないか」。切実な返信が多数寄せられました。

(十一月)、医療シンポジウム(十二月、今年三月)開催と続きます。成宮さんは「医師の確保は国の責任でやるべきなんだという声を、みなさんと一緒にあげていきたいと思います」と呼びかけました。

共同の広がり

共同の広がり

「医師不足は、公立病院も含めて深刻です。小児科、産婦人科の閉鎖の危機に対して、成宮さんには子育て中のお母さんの目線で実感を持って、先頭に立って頑張ってくださいました。積極的に外にとびだして行って現場にかけつける行動力は、大したもの。今回、府に予算がついたが、ぜひ国会で取り上げて、公立、民間を問わず、医師確保の予算がつくようにしてもらいたい」

寄せられた声をもとに、党府委員会と府議団は十月に「医師確保と地域医療を守る五つの提言」を発表しました。

その後も、政府交渉

「中間報告は、医師の勤務条件の改善など多くの点で党の『提言』と一致しました。いかに『提言』に道理があり現実的

「赤い火をつけて」